

大学生訪韓団 派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的】日本全国から選抜された大学生らを韓国に派遣し、各種視察、大学訪問等を通じた同世代との交流、講義聴講等を通じて、韓国の社会や文化に対する理解を深め、日本の魅力を広く積極的に発信することにより、今後の日韓間における相互理解の促進や信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】プレプログラム（オンラインによる事前学習） 日本の大学生等 30 名
派遣プログラム 日本の大学生等 30 名

【訪問地】プレプログラム ソウル特別市 30 名
派遣プログラム ソウル特別市、江原特別自治道 30 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

9 月 2 日（土） オリエンテーション（プログラム説明）、講義、韓国大学生訪日団との交流

■ 派遣プログラム：

9 月 11 日（月） 金浦国際空港より入国、オリエンテーション

9 月 12 日（火） 【表敬・講義聴講】外交部「韓日関係の現状と推進方向」

【表敬・講義聴講】在大韓民国日本国大使館公報文化院、【視察】戦争記念館

9 月 13 日（水） 【大学訪問・講義聴講】ソウル大学校日本研究所

「韓国の大衆文化から見る日韓文化交流」

【交流】ソウル大学校キャンパスツアー及び学生交流、【視察】青瓦台

9 月 14 日（木） 江原特別自治道春川市へ移動、【視察・講義】コモンズフィールド春川、江原特別自治道原州市へ移動、【視察】ミュージアム SAN

9 月 15 日（金） 江原特別自治道楊口郡へ移動、【視察】DMZ パンチボール地区、【視察・体験】玄安野生花公園、【視察】カミノサイダリー、ソウル特別市へ移動

9 月 16 日（土） 【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト準備及びフィールドワーク、【交流】ホームステイ

9 月 17 日（日） 終日ホームステイ

9 月 18 日（月） ホームステイから再集合、成果報告会、【視察】ロッテワールドタワー・ソウルスカイ

9 月 19 日（火） 金浦国際空港より出国

2. 記録写真



2023 年 9 月 12 日【表敬・講義聴講】外交部
「韓日関係の現状と推進方向」



2023 年 9 月 12 日【表敬・講義】在大韓民国日
本国大使館公報文化院



2023 年 9 月 12 日 【視察】戦争記念館



2023 年 9 月 13 日【大学訪問・講義】ソウル大学
校日本研究所



2023 年 9 月 14 日【視察・講義】コモンズフィー
ルド春川



2023 年 9 月 15 日【視察】DMZ パンチボール地区



2023 年 9 月 15 日 【視察】カミノサイダリー



2023 年 9 月 16 日 【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト準備及びフィールドワーク



2023 年 9 月 16 日 【交流】ホームステイ対面式



2023 年 9 月 18 日 【成果報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

ソウル大学訪問の際に聴講した「韓国から見た日本の文化」についての講義がとても興味深かった。日本で K-POP や韓国ドラマが人気であるように、韓国の方々にも日本のエンターテインメントに興味を持ってもらえるよう、出会う人一人ひとりに日本の魅力を発信していき、日韓の文化交流をより深いものにしていきたいと思った。

◆ 日本 大学生

交流した学生で当初、日本に対してあまりいいイメージを持っていなかったという方に出会ったが、交流を通じて「また会いたい」と言ってもらうことができた。政治的な関係だけでは日韓の相互理解は不十分で、このような文化の交流や様々な世代の交流が大切になってくると訪韓を通じて感じた。今後、教育実習に行く機会があるが、訪韓団の体験や日韓関係について、韓国の学生から聞いたメッセージを活かしながら授業をしたいと思う。

◆ 日本 大学生

今回の訪韓団での学びを通して、広い視野で自国のみならず、あらゆる問題に関心をもち、それらの問題を考え続ける姿勢が重要だと強く感じた。その中でも文化を通じた青少年交流は、日韓の人々を繋ぐ大切な手段となる。日本国内では見えてこない韓国を知るすべとして青少年交流があるが、メディアの情報や SNS で飛び交う真偽の分からない互いの国の情報を実際に目で見て自分で感じて正解を知ることが両国の関係維持・改善に繋がると思う。

◆ 日本 大学生

少子高齢化や地方の過疎化などの社会問題を考えるにあたって、国内だけでなく国外の事例も参考になるということを学べた点が、一番印象に残っている。「地方は都市部の真似をして人を呼び寄せるのではなく、地方はその地方の良さを生かして人を呼び寄せるべきだ」という言葉が胸に刺さった。地方活性化を考えるにあたってとても重要な考え方だと改めて感じた。

◆ 日本 大学生

気候危機への対策を求める学生団体を運営しているが、コモンズフィールド春川でのお話では、普段私が頭を悩ませている仲間集めや、実現したいと考えている「気候危機について気軽に話せる空間づくり」にも触れられ、とても刺激になった。私たちの身の回りの社会問題としては最もグローバルな問題の一つともいえる気候危機について、外国の方のアイデアを学べることは非常に良いことだと思う。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 韓国側受け入れ機関担当者

短い時間であったが、日本の学生たちに韓国の魅力を体験してもらうことのできる日程を企画した。その中で参加者が韓国と日本が築きあげてきたさまざまな交流の現場を訪れ、お互いへの理解が深まる姿を見て事業担当者としてやりがいを感じるだけでなく、このような事業を実施する意味を実感することができた。

◆ 韓国側交流相手 学生

プレプログラムの際にオンラインでコミュニケーションを取っただけだったため、実際に会ったときは少しぎこちない雰囲気だったが、お互いに関心のあることを共有し、それについて話すことによって、すぐに打ち解けることができた。11月の訪日の際に再会し、より親しくなることで私たちが日韓友好の土台になれたらと思う。

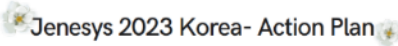
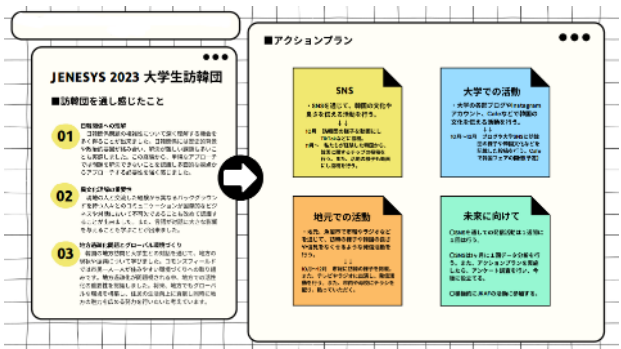
◆ 韓国側交流相手 学生

ディスカッションでは日韓の社会問題をテーマに話をした。日韓が協力して解決できる、改善していける問題にはどのようなものがあるのか、若い世代が何をしなくてはならないのかを考える時間になり、とても有意義な活動だった。また、大学生同士の他愛もない話もしたが、日韓の学生ともに同じような悩みを持っていると感じた。国は違うが、同じ20代であるからか共通点がとても多いことがわかった。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 Instagram post from Commonz field. The image shows a building with a large mural. The caption is in Japanese and mentions 'Commonz field' and '春川'.	 Instagram post from CAMINO cidery. The image shows a blue apple logo with the text 'CAMINO Yango Apple Project'. The caption is in Japanese and mentions 'CAMINO cidery'.
2023 年 9 月 14 日 (instagram) Commonz field 春川という市民が主導する活動と革新的なアイデアをつなげ地域社会に肯定的な変化をもたらそうとする地域社会革新センターを訪問した。地域課題は年々深刻になっていても他人事と思いがちで、後回しになってしまうが、活動している方々の取り組みを知ることや、問題解決に向けて考える機会を作れることはとてもいいことだと思った。	2023 年 9 月 15 日 (Instagram) CAMINO cidery では時には異常気象が起きたところまでりんごを拾いに行き、規格外りんごを使った製品を販売したりしているそうです。日本でも異常気象は多発していて、そのたびに農作物の被害が問題になっているので、被害の穴埋めになるこのようなビジネスモデルの形成に関心が高まりました。
 Instagram post from CAMINO. The image shows a blue bear mascot. The caption is in Japanese and mentions 'CAMINO'.	 Newspaper clipping from the Yomiuri Shimbun. The headline is '韓日大学生の交流盛ん 多彩な催しがめじろ押し' (Korean and Japanese university students' cultural exchange is thriving, with a variety of events pushing forward). The article discusses the exchange between students from Korea and Japan.
2023 年 9 月 16 日 (Instagram) 「グローバル課題の解決に向けた日韓協力」というテーマで私たちのグループは日韓両国が抱える地方の若者雇用についてディスカッションした。両国の現状を伝え、問題解決のためには情報を共有しあい、改善策の実行に繋げることが必要なのではないかと話した。11 月の報告会で良い発表ができるようにしたい。	2023 年 9 月 27 日 (統一日報) 「韓日大学生の文化交流盛ん 多彩な催しがめじろ押し」 テーマ関連視察や同世代交流時に実施したディスカッションについて紹介。

6. 報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表 (訪問地：ソウル特別市、江原特別自治道)

 Jenesys 2023 Korea- Action Plan ・訪韓中に感じたこと・学んだこと 今回の訪韓ではたくさんの貴重な経験をさせていただきました。そんな9日間で私が感じていたことは、人との出会いや新鮮な体験は、自分自身を奮い立たせ、活力を得られる行為であり、これから社会人になっても自らをそんな環境に置いていたということでした。共にプログラムに参加した訪韓団の仲間たちや韓国の大学生は、広い視野で自分と世界を見つめ、考え行動する姿が本当にかっこよく、そんな彼らから私は活力をもらいました。 また、9日間すべてのイベントが充実していましたが、特に春川のコモンズフィールド 	
【訪韓中の学び】 春川のコモンズフィールドでは私自身が関心のある空間作りや、そこでの人と人とのつながりにまつわる講義を受けた。韓国の文化や習慣下におけるそれらの体现の仕方が興味深く、これからより広い視野で学びを深めていけそうだと感じた。 【テーマに関する訪韓中の発表】 今回のプログラムは日韓に共通しているグローバル課題を解決しようと取り組む方々のお話をお聞きする機会が多かった。コモンズフィールドでは食品ロス問題、地球温暖化の解決を目指す方々のお話を聴き、カミノサイダリーでもりんごの大量廃棄を抑える活動をする方のお話を伺った。国が違っても同じ問題を抱えている国同士、今回のような意見交換やその国ならではの解決案を共有しあうことが、両国の未来にとって良い動きであると感じた。 【アクション・プラン】 ・今回の訪韓で感じたことや疑問に感じたこと、興味を持ったことを深めていく。 ・深める過程や自分なりの見解をnoteというサイトで発信する。 ・韓国との繋がりを絶やさないために訪韓 OBOG 会の活動に積極的に参加し、交流を通じて新たな価値観に触れ自分をアップデートする。	【訪韓中の学び】 現地の方と交流した経験から異なるバックグラウンドを持つ人々とのコミュニケーションが国際的なビジネスや対話において不可欠であるとあらためて認識することができた。また、言語が対話に大きな影響を与えることも学ぶことができた。 【テーマに関する訪韓中の発表】 韓国の地方訪問と大学生との対話を通じて、地方の現状や振興について学んだ。地方の過疎化が問題視される中、地方の活性化の重要性を認識した。将来、地方でもグローバルな環境を構築し、住民の生活向上に貢献すると同時に、地方の魅力を広める努力をしたいと考えている。 【アクション・プラン】 ・大学の学部のブログや Instagram 等の SNS で情報を発信する。 ・地元の市報に寄稿、ラジオ出演、母校で広報物を貼ってもらう等の活動を通じて、情報発信を行う。 ・大学生訪韓団 OBOG 会の活動に積極的に参加していく。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金